

身近な森のいまを読み解く ー都市近郊林の成り立ちとこれからー



身近な森のいまを読み解くー都市近郊林の成り立ちとこれからー

身近にある都市近郊林の成り立ちや、現在起きている問題、今後のあり方などについて解説します。

講師 島田和則 （多摩森林科学園）

都市近郊林の成り立ちとこれから

人間は森林のもたらす恵みに依存し、身近なところにも積極的に森林をつくってきました。しかし、時代を経てこれらの林をとりまく社会状況は大きく変わりました。都市近郊林の中で身近なところに多い雑木林や、都市近郊林の面積の半分強を占める針葉樹人工林は、社会経済情勢の変化により、利用や管理がなくなって放置されるようになり、さまざまな問題が指摘されるようになりました。これらに対し、市民ボランティアなど新しい主体により、一部の森林が再び管理がなされるようになりました。しかし、森林の孤立・断片化、外来種の増加など、森林をとりまくバックグラウンドも変化し、従来のやり方では通用しないこともあります。

新しい主体による現代的な森林管理は、生業から離れた自由があります。それゆえに対象林分をよく選び、適切な目標林型を設定し、それにむけた管理方法を十分検討する必要があります。また、森林の管理には継続性が必要で、長期的な管理体制が担保されないまま手広く行うよりは、小規模でも永続的に管理する方が健全に維持するために効果的です。現代的な森林管理は課題が多く、模索している状況です。

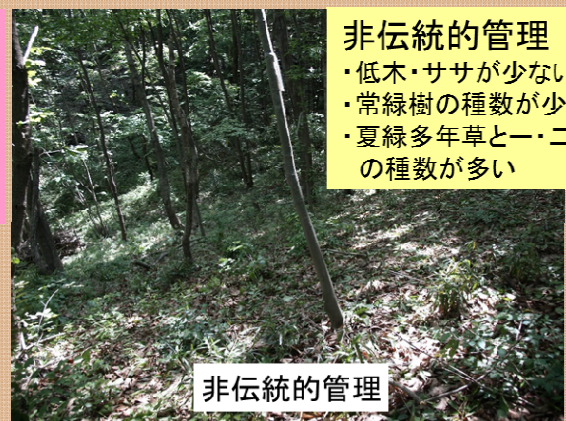
雑木林の管理タイプと植生



放置

- ・低木・ササが多い
- ・草本層の被度が小さい
- ・常緑樹の種数が多い
- ・夏緑多年草と一・二年草の種数が少ない

放置



非伝統的管理

- ・低木・ササが少ない
- ・常緑樹の種数が少ない
- ・夏緑多年草と一・二年草の種数が多い

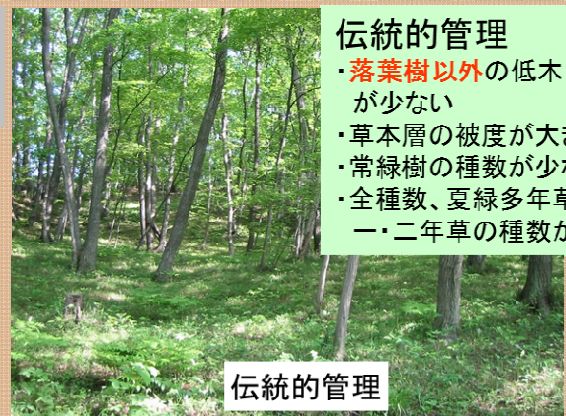
非伝統的管理



単発的管理

- ・全種数、夏緑多年草、一・二年草の種数が少ない

単発的管理



伝統的管理

- ・**落葉樹以外**の低木・ササが少ない
- ・草本層の被度が大きい
- ・常緑樹の種数が少ない
- ・全種数、夏緑多年草、一・二年草の種数が多い

伝統的管理